

「ふるさとに誇りと愛着をもつ光海っ子育成プラン」



学校名：佐世保市立光海中学校
所在地：佐世保市金比良町1-15
校長：前田 和子
生徒数：54名
学級数：5



1 本校の特色ある学校づくりの目的

平成29年度から小中一貫型金比良小学校・光海中学校としてスタートし、その教育効果を高めるために小学6年生の教室を本校に設置した。中学校教員の小学校への乗り入れ授業も多く展開し、交流を深めている。校区に米軍基地、キングスクールが隣接し、佐世保の国際色を感じる学校である。平成30年度には「話せる英語事業」の指定を受けて、英語教育を推進してきた。これからも、長崎県の英語教育のトップランナーであり続けたいと考える。さらに、本年度より、地域の中心にある学校としてCSを導入し、地域とともにある学校としての学校づくりを実践している。地域は、金刀比羅神社を中心に歴史が深く、伝統のある地域行事が盛んである。特に、地域の方々は、子どもを地域の力で育てようという意識が高く、子どもを中心に据えた行事に熱心に取り組んでいる。この地域の特長を生かし、地域そして佐世保の自然や文化に触れさせ、研究テーマ「ことばの力を育てる」のもと、郷土を愛する心を育て、思考力・表現力・コミュニケーション能力を身につけさせるため、特色ある学校づくりに取り組んだ。

2 実践内容 「ふるさとに誇りと愛着をもつ光海っ子育成プラン」を通して

(1) 学力向上プラン

①英語力向上～話せる英語事業の継続から～

- ・英語力（スピーキング・ライティング）向上を図るため3年生にGTECを実施。
- ・イングリッシュキャンプを全学年で実施。
- ・キングスクールとの交流。
- ・長崎県立大学の山崎教授との連携による英語科の授業づくり、国際理解教育を推進した。
- ・コフスハーバー市オンライン交流授業（2年生）の実施により、これまでの学びを実践交流に生かした。



イングリッシュキャンプ



コフスハーバー市オンライン交流授業

②本物にふれる学習により、主体的で対話的な深い学びをサポートした。

- ・社会科の市議会傍聴
- ・地域・保護者・子どもたち(小学6年生及び中学生)で語り合う「夢を語ろう in Kokai」
- ・活かせる仲間集団づくり (i-check 2 回目の実施)



社会科の市議会傍聴



夢を語ろう in Kokai

(2) **光海中魂向上プラン** ~ふるさとを愛し、誇りに思う子どもたちに育てるために~

①6. 29平和集会

講師に、佐世保空襲を語り継ぐ会の酒見完爾さんを招聘し、佐世保空襲に関わる話をしていただき、被爆県に住む者としての意識高揚を図り、恒久平和を願う態度を育てた。

②「いのちを見つめる強調月間」教育講演会

講師に掛谷剛志さんを招聘し、ハンディキャップに負けない生き方を学び、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を培い、自他の生命を尊重する心を育成した。

③職場体験学習

2年生が、地域(市消防署、海きらら、森きらら等10カ所)に出向き、仕事の厳しさや、楽しさを体験し、自分の将来の職業観を醸成した。

④薬物乱用防止教室、性教育講座、ヨガ教室の実施



「いのちを見つめる強調月間」教育講演会



職場体験学習

(3) 小中連携・地域連携向上プラン

① 学校行事等の情報発信

次年度の学校カレンダーを地域学校協働本部で小中合同で作成し、全校生徒と小学6年生・地域に配付し、情報発信に努めた。

② 「小中一貫便り」「学校だより」「CSだより」地域・保護者への配付

学校の情報発信と開かれた学校づくりを行うために、地域全体に配付した。

③ 開かれた学校としての環境づくり

「光海魂」の旗を校門に飾ることで、校訓が今も大切にされていることをアピールしている。

3 成果

(1) 生徒にかかわることについて「ふるさとに誇りと愛着をもつ光海っ子育成プラン」

○話せる英語事業継続から、本年度も英語力向上の取組に力を注いだ。

GTEC 実施（3年生スピーキング・ライティングの力を育てる）、全学年のイングリッシュキャンプ、キングスクールとの交流、コフスハーバー市オンライン交流授業、国際理解講演会（県立大学 山崎教授）

→英語でも日本語でも人と話そうとする力、異文化への興味・関心・意欲が向上した。

○本物にふれる学習 ～地域の人材、教材、教育力を生かした取組～

社会科の市議会傍聴、話す力の育成、「夢を語ろう in kokai」、職場体験学習、小中連携縦割り活動 等

→本物を知ること、今の自分を見つめ直し、夢・あこがれをもって、未来を見つめる子どもたちを育むことができた。

→ふるさとでのつながりにより、ふるさとを愛しく思う心を育むことができた。

(2) 学校運営にかかわることについて

- 校内研修「ことばの力を育てる」を目指した取組によって、思考力・判断力・表現力を伴う「話す力」を育成することができた。
- 地域連携による本物にふれる学習や、各教科や総合的な学習に時間において地域の方や講師を招いたことで、主体的で対話的な深い学びを確実にすることができた。
- 小中一貫型学校として、小学校と中学校の学びをつなぐ授業実践や活動が展開できた。合同研修会を3回実施し、小中の教職員の交流ができ、つながりが深まった。
(中→小への乗り入れ授業333時間)

(3) 保護者や地域にかかわることについて

- 小学校6年生から中学校3年生まで全児童生徒と地域・保護者が語り合う「夢を語ろう in Kokai」を実施することで、本校が目指す話す力の育成及び人とつながりを育む取組が展開できた。
- 地域や外部機関に人材を求め、生徒に多様な体験学習を行わせ、普段の学習をより一層深める取組ができた。(英語の国際理解教育講演会、イングリッシュキャンプ、2年生の職場体験学習、社会科の佐世保市議会傍聴 等)

4 所感 (今後に向けて)

- 学力向上及び地域連携・小中連携を目指し、校内研修のテーマを「ことばの力を育てる」とした。自分を語る活動の中で、思考・判断が伴って学びを深めること、さらに、教師の授業力を向上させることで、子どもたちの学習に向かう姿勢と学びの意欲が向上した。
- 英語科授業や地域人材活用した「話す」取組の成果が現れ、学びを楽しむ子どもたちの姿が見られた。
- 今年度も、本校が取り組む小中一貫教育の推進及びコミュニティ・スクールとして、地域とともにある学校になるための特色ある取組に力を入れてきた。ポイントは、「本物にふれる」「ふるさと学習」「話す力」である。地域に人材・教材を求め、地域の方との距離を縮めた。さらに、小学校と中学校の距離感も縮めている。地域の方の温かい励ましの声が増え、地域の元気な声が聞こえてくる成果を感じた。
- * 学校評価の意見や感想欄に書かれた地域や保護者の声から、さらに特色ある学校づくりを目指し、学力向上の期待に応えなければならないと感じている。
- * 本年度から、コミュニティ・スクールを導入し、さらに地域とのつながりを深める学校経営が求められる。「地域とともにある学校づくり」「学校を核とした地域づくり」に向けて、小中が連携・協働し、地域人材と教材を生かした取組になお一層、力を注ぎたい。